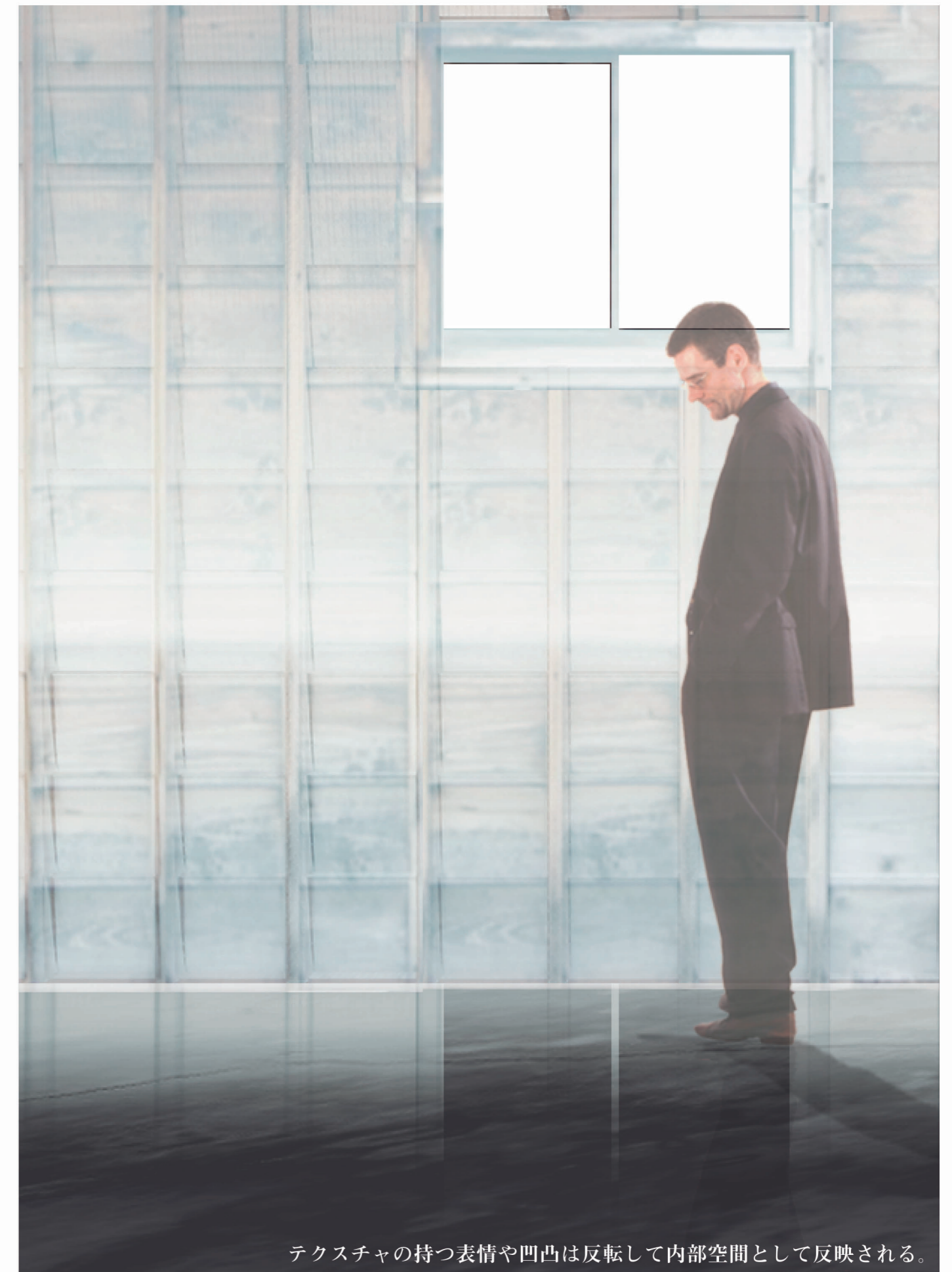


ガラスの記憶装置



老朽化した下見張りの形状を写し取り、木目が薄らとガラスに浮かび上がる。



テクスチャの持つ表情や凹凸は反転して内部空間として反映される。

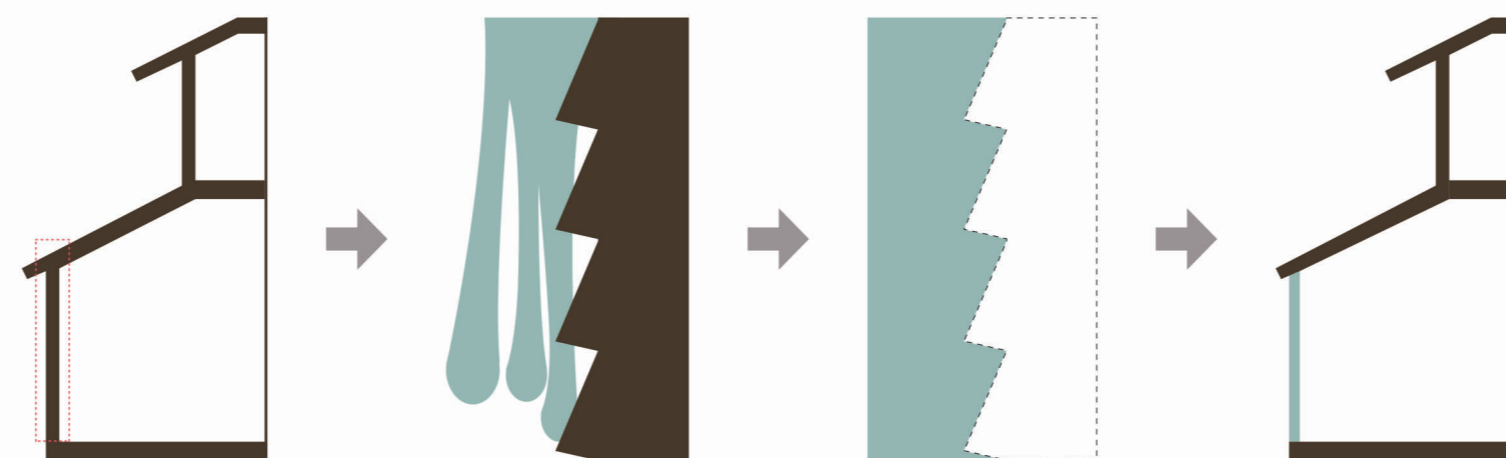
変質する街並み・変質しないガラス

2050年の未来、全世界の街並みはスクラップ&ビルドが加速し、より均一化した表情を持つことにならう。日本の持つヒューマンスケールの街区や古き良き日本家屋も老朽化によって破壊され、その土地が持つ記憶はやがて消されてしまうかもしれない。未来に向けて変質していく街並みを受け入れながらも、変質しないガラスを活用しながら古い街並みや建築の記憶を残した上で、未来に継承していく方法を考えていきたい。



ガラスは記憶を写し取り、未来の建築の一部となる

「半永久性」を持つガラスを活用して、新しい建築の可能性を考える。老朽化した壁の表面に液状化したガラスを流し込み型を取り、固体化すると既存の壁を剥がす。ガラスの表面は壁のテクスチャを反映し、記憶を継承する新しい建材、そして補強材として建築の一部となる。ガラスは過去の記憶を可視化し、未来に残す装置となる。

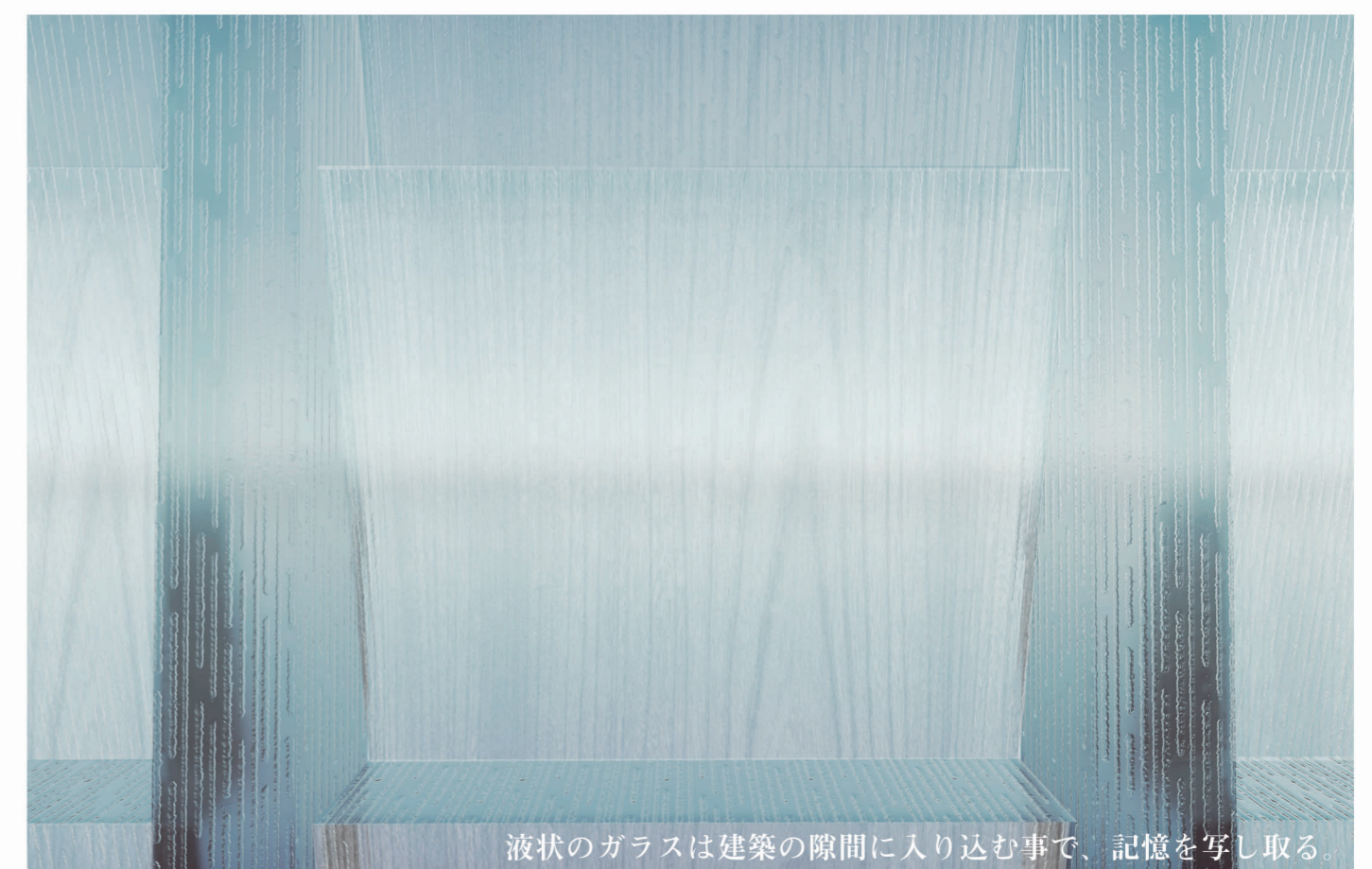


①. 老朽した建築の一部をガラスに置き換える。

②. 建築の表面部分に液体状のガラスを流し込む。

③. ガラスが固体化すると古びた建築の壁を取り外す。

④. ガラスは新しい建材として建築の一部となる。



液状のガラスは建築の隙間に入り込む事で、記憶を写し取る。